

No.	団体名	事業名	申請代表者名	事業内容
1	ふじみまち未来会議事務局	ふじみまち未来会議	有賀 大樹	町民、企業、NPOや行政等、町内の様々な関係者が対話を出来る場を設け、町の未来と一緒に描いていくことを目的とした事業。対話会を全6回開催し、延べ60名が参加。また、今後の事業展開の参考とするため、住民主体で地域づくりを行っている宮城県白石市の事例等を学ぶ研修に参加した。
2	子ども科学遊びクラブ	子ども達を元気にする活動	赤坂 行男	「手と脳に汗をかく楽しい科学遊び」を通して子供達を元気にする事業。身近な材料で楽しめる工作活動など、科学を織り交ぜ、遊びながら学べる講座等をパノラマリゾートやふらっとで開催し、保育園児、小学生、その親が延べ約400名が参加した。
3	WANI WANI 運動と音楽遊び	WANI WANI 運動と音楽遊び	三井 望	運動と音楽を基本とした遊びを通して未就学児が集い、地域の親子同士の交流を生み出していくことを目的とした事業。バランスストーン、ボールを利用した運動、電子ピアノ等を使った音遊びのイベント、親向けのワークショップも実施し、延べ約350人（各回20~25名）が参加した。
4	井戸尻応援団	井戸尻を元気に！富士見を元気に！	野沢 昭夫	井戸尻の魅力を発信する事業。YouTubeおよびポッドキャストによる情報発信。収穫祭での祭りと所作説明動画の上映会を実施した。上映会の参加者は12名。YouTubeは登録者800名弱、最も視聴回数が多い動画が3万再生されている。
5	(一社)ツキカラカエル	芸能(芝居劇・民話)を通じた町の文化・芸能推進事業	横田 博之	民話・演劇を通して文化・芸能に触れる機会の創出を目的とした事業。舞台上演、怪談師および「朗読の会」による民話イベントを開催し、町内外から約70名が参加した。
6	ふじみこどもACプロジェクト	ふじみこどもACプロジェクト	宮原 雅	アーチェリーの認知を高め、町内でのアーチェリー活動の拡大を目的とした事業。体験会を計8回、保育園でもスポーツ体験会として実施し、延べ60名弱が参加した。
7	ふじみ援農隊	ふじみ援農サポーター育成プロジェクト	久保 有美	町内農家の人手不足解消を目指すため、農業の手伝いをするサポーターのスキル底上げと信頼関係構築を図る事業。農業体験イベントを54回実施し、指導者・参加者延べ約140名が参加。登録者同士の交流ワークショップ等計5回実施し、約30名が参加した。その他、SNSでの情報発信を実施した。
8	ふじみおもちゃ工房	富士見の技と資源を生かした手作りおもちゃの開発、商品化事業	上原 一芳	「おもちゃ」をキーワードとした交流、井戸尻縄文文化のPR、地元への愛着の育み、およびSDGsを意識した商品づくりを目的とした事業。富士見産の材料、町内の技術で作ったオリジナルキャラクター「しそちゃん」のおもちゃを町内に誕生した全新生児に配布。様々な媒体で取り上げられ、町の歴史・文化、産業をPRした。
9	地球人	平日昼間子どもの小さな居場所「ヨリバ」	上条 美季	大きな集団で過ごすことに疲れたり傷ついたりした子どもが、自分のペースで人と関わる経験を積み、成長できる地域づくりを目指す事業。月に3回、子どもが集える居場所を開設、子どもだけでなく保護者のカウンセリング等も実施。延べ約230名が利用した。
10	ハハトコ舎	みんなでお味噌を作ろう	野口 芙美	味噌作りを学び、次世代へ味噌文化を継承することを目的とした事業。保育園児、小学生、大人を対象とした味噌の仕込み体験を実施し、延べ約60名が参加した。
11	劇団のような	アートを取り入れた老若男女が集う革新的なまちづくり推進事業	安部 絵里	老若男女が集い交流を通してお互いを理解することで、より良いまちづくりに繋げ、併せて演劇を通して富士見の歴史、暮らしを表現・発信する事業。身体表現のワークショップなどを通して参加者を募集。2~60歳の参加者が公演に向け、稽古や舞台小道具の制作実施し、2月に劇団の旗揚げ公演を実施した。
12	富士見スタンプ会	スタンプを集めて、歩いて楽しい駅前商店街づくり事業	佐々木 仁志	DONDONスタンプの利用拡大、商店街の来店客増加、観光客への印象付けを目的とした事業。オリジナルキャラクターをモチーフにしたステッカーの製作・配布を実施し、のぼり旗を2種各50枚製作し商店街に設置した。
13	富士見風と土の会	クラシック音楽演奏会（チェロとピアノのタベ）	香坂 昌道	クラシック演奏会を通して教養を高め、文化の香り高い街づくりに貢献するための事業。10月にチェロとピアノ、翌3月にピアノの演奏会を開催し、町内外から約100名が来訪した。
14	八ヶ岳森と高原の自然学校やっほー	アドベンチャーぼうけん隊	小林 伸治	仲間との挑戦や交流を通して生きる知恵とサバイバル術を学ぶとともに、自分の可能性を伸ばし、生きる力を育む事業。伝統の寒天づくりや野菜づくり、竹林整備後の竹を利用した竹筒ご飯、自然を活かした遊びなどを実施し、延べ約500名が参加した。